

## 第9章 総需要II. IS-LM分析とAD曲線

市東 亘

shito@seinan-gu.ac.jp

平成24年12月20日

### 1 IS-LMモデルによる変動の説明

IS-LMモデルを用いた比較静学を行なう。

(1) 拡張的財政政策 ( $T$  の変化は各自で)

$$\begin{cases} \text{IS: } Y = C(Y - T) + I(r) + G \\ \text{LM: } \frac{M}{P} = L(r, Y) \end{cases}$$

$G \uparrow \implies$  \_\_\_\_\_ 曲線が \_\_\_\_\_ へシフト (Ch8 参照)



## インプリケーション

$G \uparrow$  で乗数効果を通して有効需要増大,  $E_0 \rightarrow E'$

$\Rightarrow$   $Y$  の増大により \_\_\_\_\_ 需要 \_\_\_\_\_

$\Rightarrow$  \_\_\_\_\_ を売って \_\_\_\_\_ を得ようとする

$\Rightarrow$  \_\_\_\_\_ 市場は超過供給  $\Rightarrow r$  \_\_\_\_\_

$\Rightarrow$  \_\_\_\_\_ の上昇により \_\_\_\_\_ より \_\_\_\_\_ の方が魅力的になり

\_\_\_\_\_ 市場の超過需要が改善され, \_\_\_\_\_ 市場の超過供給が改善される.

$\Rightarrow$  利子率の上昇は企業が採用する投資プロジェクトを減少させるため,

\_\_\_\_\_ が起こり  $E' \rightarrow E_1$  となる.

## 留意点

- 古典派と違い投資のクラウンディング・アウトはフル・クラウンディング・アウトではない.
- 実際には財市場の調整より金融市場の調整の方が速いため, 有効需要の増大と利子率上昇によるクラウンディング・アウトが同時の生じて, LM 曲線上を  $E_0 \rightarrow E_1$  へと直接調整されると考えられる.
- クラウンディング・アウトは政府による民間需要の横取りと考えることも出来る. 一般に, 民間の投資プロジェクトの方が政府の公共プロジェクトより効率的と考えられるため, クラウンディング・アウトはあまり望ましくない.

## (2) 拡張的金融政策

$$\begin{cases} \text{IS: } Y = C(Y - T) + I(r) + G \\ \text{LM: } \frac{M}{P} = L(r, Y) \end{cases}$$

$M \uparrow \Rightarrow$  \_\_\_\_\_ 曲線が \_\_\_\_\_ へシフト (Ch8 参照)



## インプリケーション

$M \uparrow \Rightarrow$  貨幣市場超過供給。貨幣需要はそのままなので、新たに供給された貨幣で収益率の高い債券を購入しようとする。

$\Rightarrow$  債券市場は超過 \_\_\_\_\_  $\Rightarrow r$  \_\_\_\_\_

$\Rightarrow r$  \_\_\_\_\_ で投資需要 \_\_\_\_\_  $\Rightarrow$  \_\_\_\_\_ 効果から  $Y$  \_\_\_\_\_

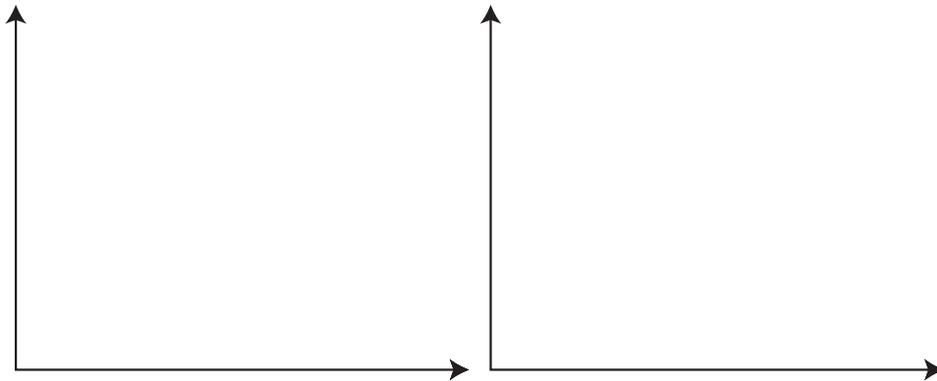
$\Rightarrow$  結局,  $r$  \_\_\_\_\_  $Y$  \_\_\_\_\_ で  $E_0 \rightarrow E_1$  へ

(3) ポリシー・ミックス

拡張的財政政策  $\implies$  利子率上昇で投資のクラウディング・アウト

↑

これを防ぐために金融政策を併用



拡張的金融政策と合わせることで、利子率を一定に保ち投資のクラウディング・アウトを回避出来る。

## 2 総需要曲線 (AD 曲線)

(1) IS-LM モデルから総需要曲線へ

財市場 IS }  $\Rightarrow$  AD 曲線 ( \_\_\_\_\_ と \_\_\_\_\_ の関係)  
貨幣市場 LM }

$P \uparrow \Rightarrow$  \_\_\_\_\_ 市場超過 \_\_\_\_\_

$\Rightarrow$  均衡取り戻すためには  $\left\{ \begin{array}{l} \text{① } r \text{ 固定で } Y \text{ _____} \\ \text{② } Y \text{ 固定で } r \text{ _____} \end{array} \right.$

$\Rightarrow$  \_\_\_\_\_ 曲線 \_\_\_\_\_ にシフト

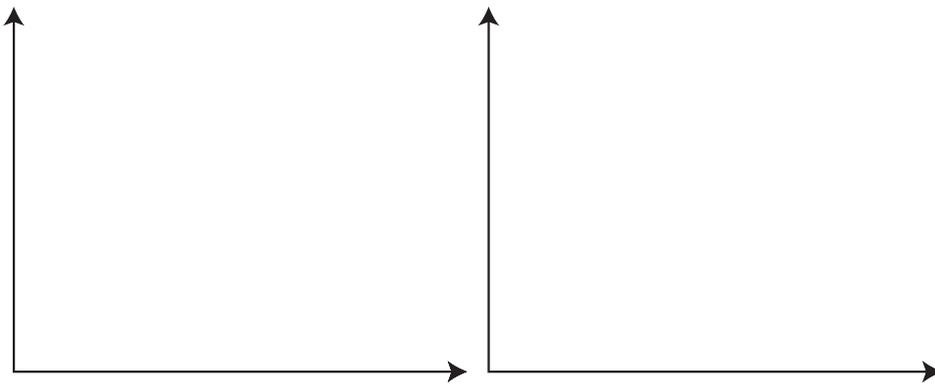


故に、財・貨幣両市場が均衡している下では  $P \uparrow \Rightarrow Y$  \_\_\_\_\_



(2) 財政政策と AD 曲線

$G \uparrow \Rightarrow$  \_\_\_\_\_ 曲線が \_\_\_\_\_ ヘシフト



(3) 金融政策と AD 曲線

$M \uparrow \Rightarrow$  \_\_\_\_\_ 曲線が \_\_\_\_\_ ヘシフト

